論文様式

[ふりがな] ひがしなか ひでなり
[氏名] 東 中 秀 成

受験番号	※
------	---

(※欄は記入しないでください)

課題 ■ 現在の区行政の課題と、その解決策について (区長職)
--

1 はじめに～区行政について

区行政は、住民情報、保険年金、福祉、選挙等をはじめ法令等に基づく膨大な行政実務を担い、市民生活を支える。また、区行政は地域社会の一員であり、市民に寄り添う真摯な取組みが重要である。

この基本があつてこそ、市民は区行政に信頼を寄せて下さる。まずここを日々省みなければならない。

そして、近年の市政改革と区政改革により、区行政はより総合的な機能を担うに至った。区長は区域における局等の基礎自治行政を総理するCMであり、複数の区職員と教育担当を兼務し、条例設置の区政会議等にもよって施策を自律的に実施している。

また区長は区長会議や部会、ブロック会議、区間連携、区局連携等により、全区的な区行政課題に協力して当たり、全市的な政策や施策にも参与している。

こうした区行政と地域社会によるニアイズベターのさらなる推進は、区長会議が今般の「区政がめざす姿」として描いており、その方向性のもと、私自身の区長経験も踏まえて、4テーマについて課題とその解決策を記したい。

2 テーマ別の課題と解決策

① 地域

町会加入率低下等に象徴される地域力低下が危惧されている。

これには、区行政も協働して地域の多様な活動主体とつながり合い、区長会プロジェクトによる町会加入促進や集合住宅層へのアプローチ等も丁寧に進める。また、地域活動協議会への参画促進等も通して、顔の見える関係の広がりや、担い手育成やコミュニティ醸成等の地域力の底上げを支援する。

さらに、昨今の多様な生き方や活動等のあり方や、コロナ禍の影響等に鑑み、新たなつながり方の模索も大切である。多様な活動主体、個人、家庭等がフラットにつながり合う場やネットワーク等を区行政もサポーターとして参画して醸成し、そのコミュニティ感を共有する。誰ひとり取り残さないために今般のOne-to-Oneモデルも鍵である。

これらつながり合いは以下の論点にも通底する。

② 保健福祉センター所管分野

保健、子育て、福祉の分野では、膨大な法令等のもと事務と人的サービスが増大し、乳児から高齢者までの健康施策や、深刻な相談、虐待、生活苦、また、市民の生命危機の事案等に日々直面している。

これには、区行政組織内の部署や担当者を越える連携、そして区局連携も欠かせず、とりわけ地域の活動主体や機関等との複線的な連携が重要である。個人情報に留意しつつ区行政と連携先が協働することで総合的な対応を可能にし、市民の生命や幸せを確かに守り得ると実感する。貧困の連鎖を断つような居場所づくりも重要である。また、多彩で安心できる子育て施策は、次代を担う世帯層をエンパワー

する。

人への尊重と慈しみによるつながり合いは、地域社会の良好な意識同調を生む。「気にかける見守り」の本質を忘れてはならない。

③ 防災

自然災害は激甚の度を増しており、市民が生命を守る行動を自ら取って頂けることが重要である。

これには、防災意識や知見の広報と醸成、地域防災訓練等を重ね、防災計画を地域と協働してアップデートしながら、避難行動要支援者の避難や、医療や介護等の活動主体との連携等も含めた、より実際の体験知見を共有する。また小中学校で防災教育を地域防災人材と協働実施する等、生命を守る行動を世代を越えて共有する。

発災時、区行政も関係機関も最大限の体制と対応を取るが、地域社会の自助共助互助が大きな力であり、この協働で、生命を守り安全安心を確保し復旧を図る取組みが奏功する。

地域の防災意識は、防火、防犯、交通安全等の意識と通底し、より良い地域社会の鍵となる。

④ DX

DXは、変革を続ける社会と技術の世界水準に沿うアジャイルな取組みであり、区行政においても2040年問題への対応等も含め、市民利益を最大化する観点から時代をリードする位の取組みが重要である。社会全体、行政施策の全分野にも関わる。

これには、デジタル統括室はじめ関係局等と、区長会議の人事財政部会や関係部会等が連携して特別職のもとエンジンとなり、まずスマート申請等の端緒を開いた。現在、フロントヤード改革やAI応答等のモデリング段階にあるが、多様なモデルを分散試行して全区に展開するプロセスを重ねつつ、基幹システム標準化等もシンクロさせる。

市民感覚のチャレンジにより、市民と区役所の接点の新たなかたちや、職員の働き方の改革等も進めてヴァーチャル行政を志向し、区行政と地域社会のニアイズバターの新地平を展望し続ける。

3 むすびに

世界、国家、府市、局室等の広域性に対し、区行政が立つところはまず地域性である。国際紛争やインバウンド、大阪・関西万博の取組み、市域行政ブロック化等と、区行政との結節点が、区行政の「今」である。その「今」の区行政が根差すのは、「今」のライヴな地域社会である。

そのライヴな市民の生活や声、多様な活動、商店街のにぎわい、企業市民の活動、イベントや行事の交流、まち角の交流、学校や施設の活動等々、すべてが区行政の元であり宝であり原動力である。その地域の方々とのコミュニケーションで頂く力によってこそ、区行政は推進され得る。そのコミュニケーションとは、「今」の折々の雑談や会話ないし対話に始まる。

公共の福祉の増進とは地域社会がより良くなるということであり、それは地域の市民が覚える幸せが増進するということである。ここが基礎的行政の総合的拠点たる区行政の使命であり、この矜持をもって今後も取り組んでまいりたい。

(約 2200 字)